

2011 年 12 月の東北地方の天候

【 12 月の特徴 】

○低温

○寡照

○東北日本海側の多雪

(1) 2011 年 12 月の概況

この期間、冬型の気圧配置が続いた。東北日本海側では雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多かった。上旬のはじめは低気圧が通過し暖気が流れ込んだために高温となったが、その後は冬型の気圧配置となり断続的に強い寒気が流れ込み低温が続いた。また、冬型の気圧配置が強く、季節風に伴う雪雲の流入が続いたため、日照時間は少なくなり、東北日本海側で多雪となった。

月平均気温は東北地方で低い。月降水量は東北地方で平年並。月間日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で少ない。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で 136% と多く、東北太平洋側で 71% と平年並。

(2) 各旬の天候経過

上旬：期間のはじめに低気圧が通過し、その後冬型の気圧配置となった。東北日本海側では曇りや雨または雪の日が続き、東北太平洋側でも曇りや雨または雪の日が多かったが、晴れの日もあった。3 日は日本海と本州南岸を低気圧が発達しながら北東進し、東北地方付近を通過した影響で、東北太平洋側を中心に大雨となった。4 日はこの低気圧が千島付近で急速に発達し強い冬型の気圧配置となったため、東北日本海側で大雨となったところがあり、5 日にかけて東北地方では風が強まった。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。

中旬：この期間、冬型の気圧配置が続いた。東北日本海側では雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多かった。16 日から 17 日にかけてと 19 日は強い寒気が流れ込んだため東北日本海側で大雪となり、東北太平洋側でも曇りや雪のところが多かった。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり少ない。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。

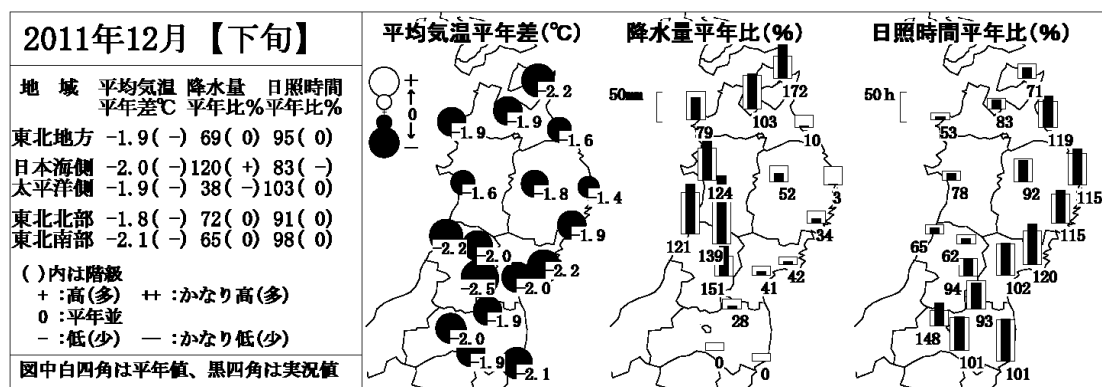
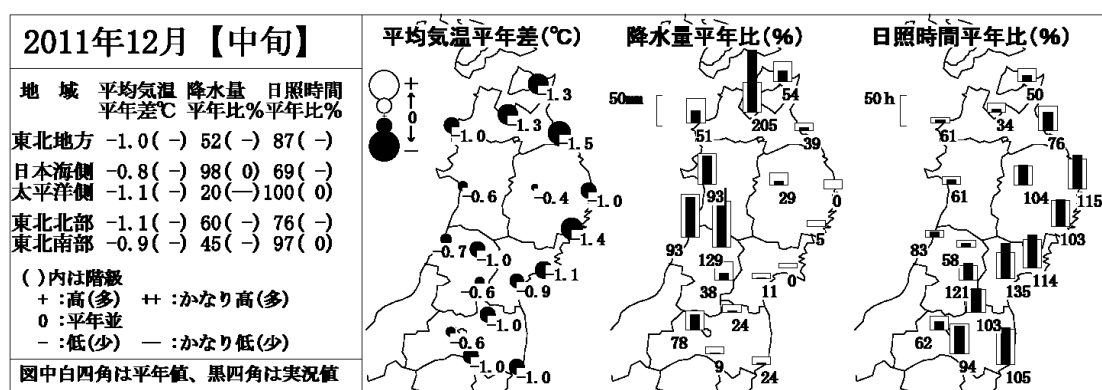
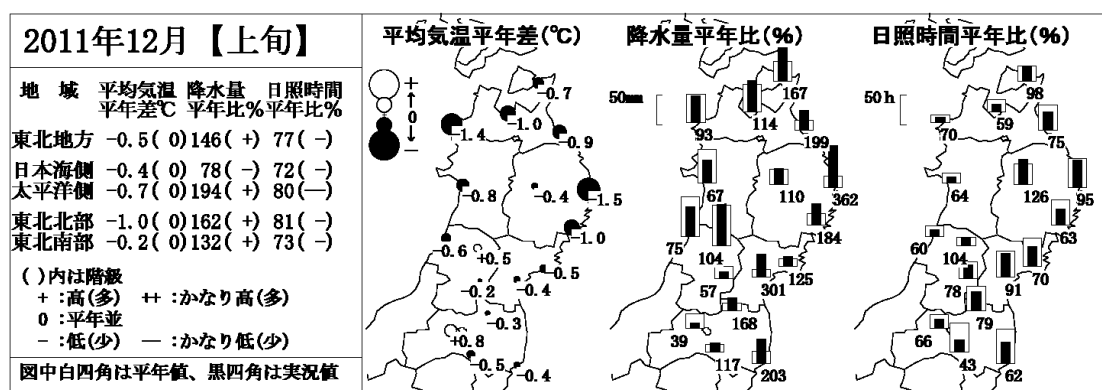
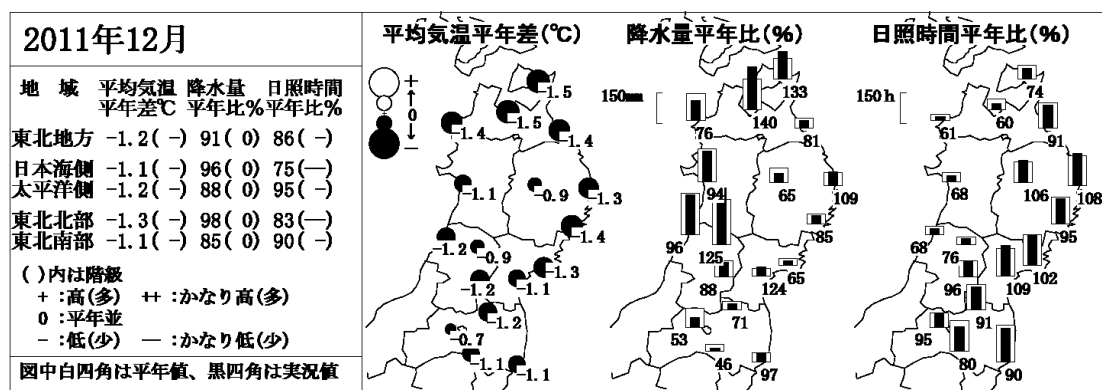
下旬：この期間、冬型の気圧配置が続き、気温は低くなった。東北日本海側では雪の日が続き、東北太平洋側では晴れの日が多かった。23 日から 30 日にかけては冬型の気圧配置が強まり寒気が流れ込んだ影響で東北日本海側で大雪となった。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。

(注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています(速報値)。
細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。
平年値の統計期間は 1981～2010 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2011年12月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1981～2010年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2011 年 12 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級 (℃) (℃)	降水量(平年比) 階級 (mm) (%)	降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級 (h) (%)	降雪深さ(平年値) 階級 (cm) (cm)	最深積雪(平年値) 階級 (cm) (cm)
青 森	0.0 (-1.5) -	211.0 (140) +	23	31.5 (60) -*	205 (153) +	78 (51) +
深 浦	1.1 (-1.4) -	100.5 (76) -	20	19.4 (61) -*	99 (67) +	26 (20) +
む っ	-0.2 (-1.5) -	137.5 (133) +	18	53.0 (74) -*	119 (91) +	66 (24) +*
八 戸	0.4 (-1.4) -	40.0 (81) ○	5	112.7 (91) -	22 (40) -	10 (9) ○
秋 田	1.8 (-1.1) -	151.0 (94) ○	23	30.8 (68) -*	99 (74) +	43 (17) +*
盛 岡	0.1 (-0.9) -	46.0 (65) -	9	108.2 (106) ○	33 (53) ○	12 (19) ○
大 船 渡	2.2 (-1.4) -	43.0 (85) ○	3	124.8 (95) -	5 (11) ○	5 (4) +
宮 古	1.8 (-1.3) -	70.5 (109) +	2)	159.9 (108) +	6 (16) ○	4 (8) ○
仙 台	3.4 (-1.1) -	45.5 (124) +	2	150.5 (109) +	8 (9) ○	5 (6) ○
石 巻	2.2 (-1.3) -	22.0 (65) ○	3	152.8 (102) ○	7 (6) +	7 (5) +
山 形	1.4 (-1.2) -	72.5 (88) ○	15	77.4 (96) ○	103 (77) +	45 (23) +*
新 庄	0.7 (-0.9) -	278.5 (125) +	24	29.6 (76) -	241 (154) +*	106 (48) +*
酒 田	3.3 (-1.2) -	196.5 (96) ○	24	29.7 (68) -	74 (56) +	27 (14) +
福 島	3.2 (-1.2) -	29.5 (71) ○	4	114.4 (91) -	22 (28) ○	10 (11) ○
若 松	1.5 (-0.7) -	49.5 (53) -	12)	66.9 (95) ○	94 (83) ○	27 (30) ○
白 河	1.9 (-1.1) -	16.5 (46) -	1	121.7 (80) -*	4 (21) -	2 (8) -
小 名 浜	5.3 (-1.1) -	43.0 (97) ○	2	165.5 (90) -	()	()

(注) 1. 平年値は 1981～2010 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1981～2010 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、値が 1981～2010 年の観測値の上位または下位 10%に相当する場合には階級の「+」に * を付加した。この場合には

かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

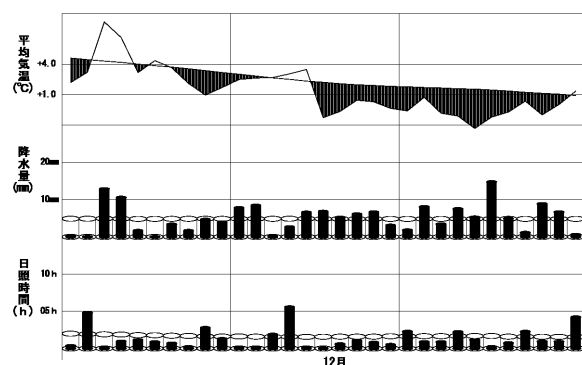
と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

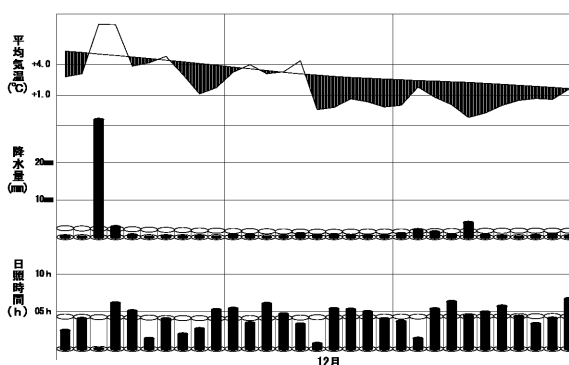
3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

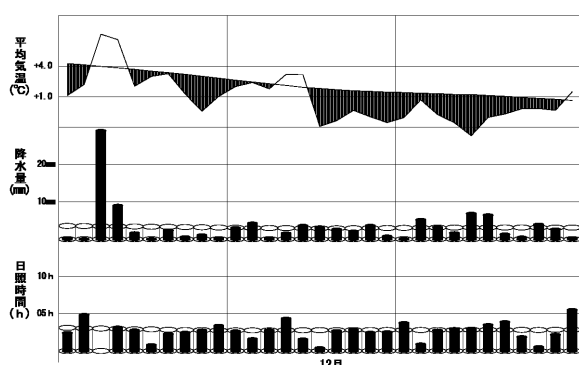
(5) 2011 年 12 月の日別経過図



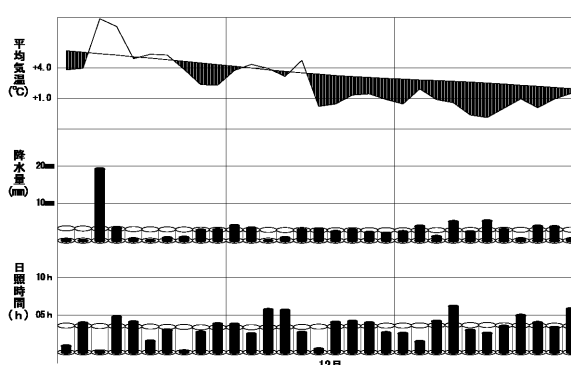
東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図



東南北部の日別経過図



東北南部の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(6) 2011 年 12 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新
3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新
3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新
3 位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新
3 位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新
3 位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新
3 位以内はなし

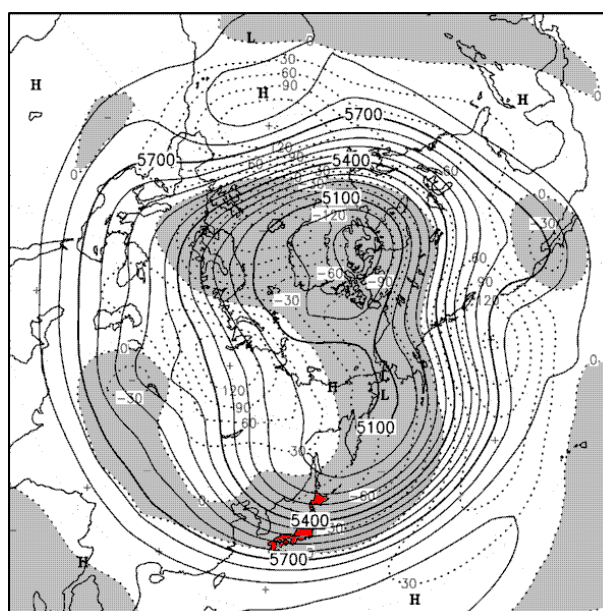
降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新
3 位以内はなし

月最深積雪大きい方からの順位更新

順位	地点名	最深積雪 cm	起 日	これまでの最深 cm (西暦年)	開始年	平年値 cm
3	新庄	106 =	30	126 (1973)	1957	48
	むつ	66	25	89 (1947)	1935	24

(7) 2011 年 12 月の循環場の特徴

500hPa 高度は、偏西風の蛇行が明瞭で、太平洋北東部と中央シベリアで気圧の尾根が発達し正偏差となった一方、カムチャツカ付近で気圧の谷となって北日本は負偏差となった。シベリア高気圧、アリューシャン低気圧ともに平年より強く、冬型の気圧配置になりやすかったため、東北地方は低温となった。



2011 年 12 月の平均 500hPa 高度

実線は高度(m)、間隔 60m。点線は偏差(m)、間隔 30m。
陰影部は負偏差（寒気に対応）。

(8) 2011/2012 年寒候期 季節現象

2011/2012年寒候期 季節現象(初日)									
官署名	初 霜			初 氷			初 雪		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
青森	10.28	10.29	10.30	11.18	11.3	11.17	11.15	11.6	10.26
秋田	11.18	11.11	11.17	11.18	11.17	11.27	11.15	11.13	11.15
盛岡	11.10	10.22	10.19	11.10	10.27	10.27	11.15	11.8	11.15
仙台	11.18	11.10	11.17	11.26	11.21	11.24	12.1	11.24	12.15
山形	11.10	10.30	11.12	11.11	11.1	11.12	11.16	11.18	11.29
福島	11.18	11.9	11.19	11.27	11.14	11.19	12.9	11.26	12.9

初冠雪									
山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年	山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年
ハツコウダサン 八甲田山	1585	10.3	10.17	10.26	ガンドサン 雁戸山	1485	11.10	10.29	10.27
イワキサン 岩木山	1625	10.3	10.21	10.27	リュウザン 瀧山	1362	11.15	10.30	10.27
タイヘイザン 太平山	1170	11.15	11.2	10.26	イズミガタケ 泉ヶ岳	1175	11.16	11.6	11.29
イワテサン 岩手山	2038	10.2	10.13	10.27	ザオウザン 蔵王山	1841	10.4	10.24	10.27
ガッサン 月山	1984	10.3	10.18	10.29	アヅマヤマ 吾妻山	1949	10.3	10.23	10.27
アサヒダケ 朝日岳	1871	10.3	10.22	10.27					

(注) 蔵王山は熊野岳、吾妻山は一切経山の標高を示す。